

## バイクタクシーからユニコーンへ

## ーインドネシアのGO-JEK

割石俊介

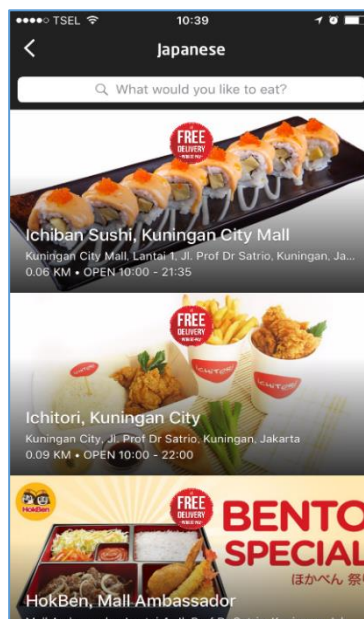
ジャカルタの街中で見かけるバイクタクシーをOJEKと言いますが、OJEKの配車アプリとしてスタートした「GO-JEK」は、もはやバイクタクシーにとどまらず、サービスラインを着々と拡充中です。

レストランからのデリバリー、エアコンや部屋の掃除、車のバッテリー交換や洗車、美容院やネイルサロン、荷物の配送、マッサージ、タクシーの配車、各種買い物、映画チケットの購入など。これらをスマホでオーダーすることが可能な驚きのサービスに成長しています。

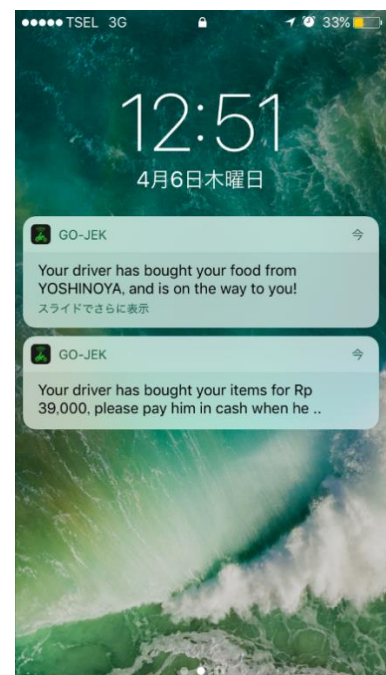
私も試しに吉野家の牛丼を注文してみました。注文してから15分ほどでオフィスに届けてくれました。仕組みは以下の通りです。



(多様なメニューを選ぶことができる)



(日本料理カテゴリーの画面)



(経過報告のメッセージが送られてくる)

1. GO-JEK アプリの Go Food メニューで最も近い場所にある吉野家を検索
2. 牛丼(並)を選択 ※配達料金も表示される
3. 注文を確定
4. GO-JEK アプリが近所にスタンバイしているドライバーとマッチング
5. ドライバーは吉野家へ向かい、お持ち帰りの牛丼を購入(立替払い)
6. ドライバーがオフィスに持ってくるので商品を受け取り、支払い

ご丁寧なことに、「今購入したので、これから向かいます」といった途中経過報告が送られてきます。アプリからの連絡は英語を指定できるので、インドネシア語が分からなくても問題ありません。

GO-JEK における支払い方法としては、現金決済の他に Go Pay という資金決済機能もあります。Go Pay にあらかじめ資金をチャージしておくことで現金での支払いをする必要がありません。そして、その Go Pay の「資金」は他のアプリユーザに「送金」することも可能です。

世界最悪レベルの渋滞のジャカルタでは、「自分で移動しなくていい」ということの価値はとても高いので、これらのサービスには大変大きなニーズがあります。インドネシア人の中ではGO-JEKが提供するこれらサービスは、生活インフラの一つになりつつあるとっていいでしょう。インドネシアの2億5,000万人にどうリーチするかを考える上で、日本企業としても大いに参考になるところがあるのではないのでしょうか。

このGO-JEK、一見ニッチビジネスに見えて、実はビッグビジネスです。創業は2010年ですが2015年にスマホアプリを立ち上げてから急激に成長をしており、2016年には5.5億USドルの資金調達に成功、インドネシア発のIT系ユニコーン企業（10億USドル以上の企業価値のある未上場企業）として世界の投資家の注目を集めています。現在の出資者はKKRやウォーバーグ・ピンカスなどの欧米主要プライベートエクイティファンドを始め、アジアのファンドも含まれているとのこと。また、最近になって、さらに10億USドルの資金調達をするべく複数の投資家と話をしていると報道されており、今後の動向が注目されます。

※画像は、筆者のスマホ画面スクリーンショット